



「自由に言っても最初は何をしたいかわからない子もいるんです。だからプレイリーダーはきっかけになるような『うごき』をしてあげたりもします。」そう教えてくれたプレイリーダーの「にゅう」さんを見ていると、誰もいない砂場でスコップを使ってひとりで穴を掘り出した。すると、しばらくしてひとりの子が「ぼくも掘りたい!」と駆け寄ってきて、最終的にはいつの間にかメンバーも入れ替わり、大きな砂山にトンネルを开通させる一大事業に発展していた。



大人にマッチのつけ方を教えてもらう。松ぼっくりが燃えやすいという発見も、子ども達にとっては冒険の知恵。



こちらは七輪で湯沸かし。そのお湯で一体何をするかというと、カップ麺を食べる。納得。



受付の木の枝にも、男の子がとまっていたりします。



木陰で仕事に没頭する小さな大工さん。



地域と連携したプレイパーク開催の立役者、左から酒匂中学校区青少年健全育成協議会会長今屋さん、pp@seisho代表戸田さん、酒匂・小八幡連合自治会長太田さん。今屋さんは数年前に聞いたプレイパークのシンポジウムで理念に共感していたものの、そのままになっていたのだが、昨年pp@seishoと出会うことで、地域連携型のプレイパークが生まれる事になった。「今年一年はどう連携が取れるか模索する一年」と話しつつも、集まった子どもたちを見て手応えを感じているようだった。



いつも、いろいろな遊び道具を軽トラいっぱい積んで、プレイパークに持ってきてくれる、酒井虎雄さん。子どもに大人気、大人も興味津々になる独創的な遊び道具はすべて酒井さんのお手製。「子どもが構造を考えながら工夫次第で色々な遊び方ができるものを作ってます。そうすると、遊びながら自然と考える力がつくと思うんです。」

ない、すぐし方は自由です。出入り自由、大人も子ども誰でも遊べます。」と続く。  
 実は、プレイパークをこの酒匂浜公園に呼んだのは、酒匂・小八幡連合自治会長の太田さんで、開催にこぎつけるまで全面的に協力したのが酒匂中学校区青少年健全育成協議会の会長をとめる今屋さん。昨年の開催に続いて、今年二度目の開催になる。地域が発案したことで、いわゆる本場に近所にあるような普通の公園が、立派なプレイパークに変わってしまったのだ。  
 「pp@seisho」の代表を務める戸田さんは「地域の方にこそ、この子ども達の笑顔を見てもらいたいです。」と話す。今回集まった地域の自発のお手伝いの大人の数はかなり多い。いつの間にか子どもと一緒に遊んで遊んでいる、大人達の無邪気な笑顔を見ていると「地域の大人達こそ、実は子ども達のこういう笑顔を見たかったのではないだろうか、そのための方がいつの間になくなっていったのだ」、そう思った。お祭りや子供会のイベントのように大人が仕切って行う今までの地域のコミュニケーションとは明らかにちがう空気がここにはある。  
 地域とプレイパークとの出会いは、子ども達にとつてだけでなく、地域の新しいコミュニケーションとしても、とても幸せな出会いになるのではないだろうか。

プレイパークを地域で開催してみたいという方はこちらにご相談ください。  
 問い合わせ先: pp@seisho TEL.31-1787 小田原市子育て政策課 TEL.33-1874

